

## 令和4年度行動計画の進捗状況について

### 1 概要

- ・令和4年度行動計画の進捗状況については、第4期中期目標期間に係る業務実績の評価から評価指標の達成状況に重きが置かれることから、評価指標の達成度を中心に確認を行った。
- ・令和4年度は第4期中期目標期間の初年度であることから、第4期中期計画への着手状況についても確認を行った。
- ・具体的には、担当理事・担当事務部から令和4年度実績の自己評価を踏まえ、令和5年5月8日から12日まで学長・評価担当理事による担当理事へのヒアリングを行い、最終的な進捗状況の確認を行った。
- ・その結果、令和4年度行動計画（全45計画）の進捗状況は以下とおりであり、概ね予定どおり進捗している。

評定	計画数	割合
計画が予定を超えて進捗している。	7	16%
計画が予定通り進捗している。	31	68%
計画の達成に向け強化が必要。	7	16%

### 2 優れた取組・特色ある取組

#### (1) 社会共創推進の取組

##### ①イノベーション・コモنزの整備

イノベーション・コモنز（共創拠点）への転換に向けた大学施設の有効活用を推進するため、小白川キャンパスのスポーツ施設を最大限に活用し、大学が地域や産業界など多様な人々が連携し、活動するイノベーション・コモنزとなる「地域連携スポーツ拠点整備計画」を策定しており、令和3年度は多目的グラウンドの整備に引き続き、令和4年度は小白川キャンパスにおける地域との活動を促進する拠点施設「共育・共創みらいセンター」の整備や野球場、テニスコートなどの整備を実施した。



イノベーション・コモنز化の第1弾として、全天候型の陸上競技用トラックを含む新グラウンドを整備（令和4年5月）

## ②やまがた社会共創プラットフォームの設置

地域が抱える課題を共有し、その解決に向けて関係諸団体が恒常的に議論する場として、本学が事務局として運営を行う「やまがた社会共創プラットフォーム」を令和4年10月に設置した。また、地域の抱える課題の深掘りを行うとともに、地域や加盟機関の強みや弱み、そしてニーズを把握し共有するため、令和4年11月から令和5年3月にかけて加盟機関とのヒアリングを実施し、調査結果をとりまとめた。

さらに、上記地域ニーズを踏まえて、「山形県における包括的な産学官金医連携の枠組みを活用した地域リカレント教育事業プラン」を策定し、令和4年度文部科学省二次補正予算「地域ニーズに応える産学官連携を通じたリカレント教育プラットフォーム構築支援事業」に申請し、採択を受けた。(26件中12件採択)



## ③やまがたグローバル人材育成コンソーシアムの活動

地域の企業、行政（団体）及び高等教育機関の連携により、地域の発展を担うグローバル人材（学生、社会人）を育成するため、山形県国際交流人材育成協議会の内部組織として「やまがたグローバル人材育成コンソーシアム」を令和4年3月31日に設置した。産学官の事業資源を持ち寄りながら、県内で学ぶ学生と社会人を対象にグローバルな視野を持って地域発展に貢献できる人材育成を一元的に推進した。それぞれの事業には、日本人学生、留学生、社会人の延べ420人が参加した。また、地域課題を踏まえた新たな企画を2件策定した。

## ④地域コーディネーターの配置による地域産業、地方自治体等とのネットワークを強化

米沢キャンパスに新たにコーディネーター1名を配置し、置賜地域の産業、地方自治体等とのネットワークづくりを開始した。その結果、地域産業との共同研究46件、受託研究15件、受託事業13件、学術指導32件を実施。

## ⑤地域社会を活性化する多様な人材の育成（初等中等教育との連携）

令和4年度文部科学省概算要求事項（教育研究組織改革分）の採択を受け、全学の教育研究推進組織として、令和4年4月に「山形大学地域共創STEAM教育推進センター（YU★STEAM）」を設置した。

## (2) 研究推進

### ①先端的研究を目指した組織化の推進

本学が世界をリードする研究への重点支援として、YU-COE（山形大学先進的研究拠点）(S)として7拠点への支援を実施した。また、YU-COE(C)において高評価で終了した拠点を、令和5年度からS拠点へグルーピングして強化した。また、教員が研究に専念できる環境を構築するため、URA、コーディネーターを雇用し、伴走支援等を実施する体制を構築した。その結果、YU-COE（山形大学先進的研究拠点）において、目標値を上回る外部資金を獲得した。

【評価指標】 YU-COE（山形大学先進的研究拠点）における外部資金獲得額 8.8 億円  
（令和4年度から令和9年度までの6年間の平均値）

【令和4年度目標値】 8.3 億円

【令和4年度実績値】 10.5 億円

### ②未来を先導する社会実装の推進

- ・令和4年4月に、アントレプレナーシップ教育を進めるための全学的機能を有する組織として、「山形大学アントレプレナーシップ開発センター」を設置し、人材育成プログラムを実施した。
- ・特許等の知的財産の活用及び研究成果の実用化を推進するため、科学技術振興機構が開催する「新技術説明会」に参加し、企業とのマッチングを計った。また、研究成果の事業化を支援するGAPファンド「みちのくアカデミア発スタートアップ準備資金」に申請し、5件が採択された

### ③研究コミュニティの創出

総合知の研究コミュニティが有機的に集結し成長するエコシステムを構築するため、異分野交流学会を開催した。さらに、YU-COE(S)公募研究及び研究コミュニティ創出支援制度を実施し、YU-COE(S)へ10名の研究者の新規参画と、5つの研究グループ形成につながった。

### ④ナスカ研究の成果

山形大学の研究グループは、ペルー人考古学者と共同で、人間、ラクダ科動物、鳥、シャチ、ネコ科動物、蛇などの地上絵168点を、南米ペルーのナスカ台地とナスカ市街地付近で新たに発見した。

### ⑤アグリフード科学及びシステム化に関する研究力強化

令和4年度文部科学省概算要求事項（教育研究組織改革分）の採択を受け、全学の教育研究推進組織として、令和4年7月に「山形大学アグリフードシステム先端研究センター(YAAS)」を設置した。

### (3) 高度先進医療の提供

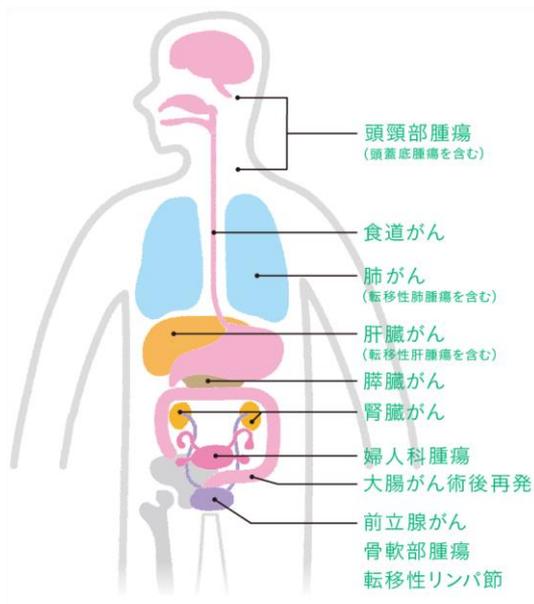
重粒子線治療について、5月から回転ガントリー照射装置の運用を開始、10月から予定していた全ての疾患の治療を開始するとともに、12月から先進医療が適用され、当初、令和4年度は300人の患者数を見込んでいたが、524人の患者数となった。また、新聞、テレビ等マスコミ等による報道件数87件、雑誌新聞等の広告掲載延べ33件、テレビCM延べ36回、セミナー、説明会10回開催等により広く東北、新潟エリアで広く重粒子線治療についての啓発活動も実施した。

低侵襲治療については、県内の医療機関から積極的に先端医療、低侵襲治療に適応のある患者さんを受け入れ、実施件数の伸長を図った。

がん遺伝子パネル検査については、広報活動としてパネル検査等の最新の情報を掲載したがんゲノム医療管理室ニュースを年4回発行するなど、県内の主要病院に送付し県内のがん医療の均てん化推進を図った。

以上の取組により、下記のとおり評価指標の達成が予定を超えて進捗した。

評価指標	令和4年度実績
重粒子線治療患者数 600人/年<達成時期：令和9年度まで> ※令和4年度患者見込数 300人	524件
先進医療及び低侵襲治療患者数 225人（令和4年度から令和9年度までの6年間の平均値）<達成時期：令和9年度>	415件
がん遺伝子パネル検査実施 140件（令和4年度から令和9年度までの6年間の平均値）<達成時期：令和9年度>	262件



<回転ガントリー照射装置>

## (4) 業務運営

### ①戦略的事項について迅速に意思決定するための戦略本部の設置と既存組織の機構化

「指揮命令系統の明確化による意思決定の迅速化」「機能重複の改善による組織の効率化」「組織運営の透明性確保等、強靱なガバナンス体制を再構築」を目的に、戦略本部の設置と既存組織の機構化を進めていた。

戦略本部については、山形大学の喫緊の課題や戦略的重要事項について迅速かつ効率的に処理することを目的とするアジャイル型組織として、令和4年4月に「戦略企画室」「社会共創推進室」「DX推進室」「国際化戦略室」「SDGs推進室」「評価・IR室」「ダイバーシティ推進室」の7室から構成する組織として設置した。既存組織の機構化については、令和4年10月に「学生支援機構」「学術基盤機構」、令和5年4月に「教育推進機構」「科学技術・イノベーション機構」を設置した。

今後、全学的な教育研究のガバナンス体制の再構築を受け、学士課程・大学院課程の見直しを行うこととしている。



### ②情報マネジメント体制の更なる強化

デジタル・キャンパス構築に向け、IT・セキュリティ知識を有する専門職員の育成及び戦略的配置、情報セキュリティの強化及び大学事務システムの最適化により、情報マネジメント体制を一層強化するために、以下の取り組みを実施した。

- ・前基本計画の自己評価を踏まえ、新たな「サイバーセキュリティ対策等基本計画（令和4～6年度）」を9月に策定した。
- ・令和5年1～2月に情報セキュリティ研修を実施し、受講対象者の理解度は88.6%であった。併せて令和5年1月に標的型メール訓練を実施した。
- ・職員に対する国家試験「情報処理技術者試験」の受験補助について周知し、受講料について5名に補助を行った。5名のうち4名がITパスポート試験合格、1名は令和5年4月に受験予定である。

### 3 令和4年度行動計画進捗状況一覧

行動計画	達成状況
<b>&lt;社会共創&gt;</b>	
【1-1】山形大学がリードする社会共創	計画が予定を超えて進捗している
【1-2】地域社会を活性化する多様な人材の育成	計画が予定通り進捗している
【1-3】地域価値創出の中核となる事業の推進	計画が予定を超えて進捗している
【独自の行動計画】YU empowering with SDGsの加速	計画が予定通り進捗している
<b>&lt;教育&gt;</b>	
【2-1】知識集約型社会の新たな「学び」を推進する教育改革	計画が予定通り進捗している
【2-2】教学マネジメントの充実	計画が予定通り進捗している
【独自の行動計画】入学者選抜方法の改善と戦略的な入試広報の推進	計画が予定通り進捗している
【3-1】改組の効果検証に基づく教育プログラムの改善	計画の達成に向け強化が必要
【3-2】高度専門人材育成課程での実践的能力養成のための取組	計画が予定通り進捗している
【4-1】教育プログラムの見直し	計画が予定通り進捗している
【4-2】産業界等と連携したキャリア支援	計画が予定通り進捗している
【5-1】医師・看護師養成課程の高度化	計画が予定通り進捗している
【5-2】教職課程の質保証	計画が予定通り進捗している
【6-1】学生のグローバル交流拡大	計画の達成に向け強化が必要
【6-2】多様な留学生の受入れ体制の充実	計画の達成に向け強化が必要
【独自の行動計画】地域発展を担うグローバル人材の育成	計画が予定を超えて進捗している
【独自の行動計画】国際化戦略に係る基本方針の策定	計画が予定通り進捗している
【7-1】多様な個性を持つ学生に対する理解を高める取組	計画が予定通り進捗している
【7-2】学生の立場に立ったサポート体制の充実	計画が予定通り進捗している
【独自の行動計画】学生が主体的に行うプロジェクトへの支援	計画が予定通り進捗している
<b>&lt;研究&gt;</b>	
【8-1】自律的な研究の推進	計画が予定通り進捗している
【8-2】先端的研究を目指した組織化の推進	計画が予定通り進捗している
【9-1】本格的な産学官連携の推進	計画の達成に向け強化が必要
【9-2】未来を先導する社会実装の推進	計画が予定を超えて進捗している
【独自の行動計画】研究コミュニティの創出	計画が予定を超えて進捗している
<b>&lt;附属学校&gt;</b>	
【10-1】実践的な実習・研修の場の提供	計画が予定通り進捗している
【10-2】地域における先導的な教育モデルの開発	計画が予定通り進捗している
<b>&lt;医療&gt;</b>	
【11-1】高度先進医療の提供	計画が予定を超えて進捗している
【11-2】地域と連携した医療人の養成	計画が予定通り進捗している
【独自の行動計画】法令遵守、ハラスメントの無いキャンパスの創成	計画が予定通り進捗している
<b>&lt;業務運営&gt;</b>	
【12-1】内部統制機能の実質化	計画の達成に向け強化が必要
【12-2】学内外の知見を法人経営に活かす取組	計画が予定通り進捗している
【13-1】施設マネジメントの機能強化	計画が予定通り進捗している
【13-2】地域を活性化する公共財としての大学資産活用	計画が予定通り進捗している
【14-1】安定的な財務基盤の確立	計画の達成に向け強化が必要
【14-2】学内資源配分の最適化	計画が予定通り進捗している
【15-1】自己点検・評価の法人経営への活用	計画が予定通り進捗している
【15-2】ステークホルダーとの対話の推進	計画が予定通り進捗している
【16-1】全学一丸となったデジタルトランスフォーメーションの推進	計画が予定通り進捗している
【16-2】情報マネジメント体制の更なる強化	計画が予定を超えて進捗している
【16-3】真に働きやすい大学の実現	計画の達成に向け強化が必要
<b>&lt;人事に関する計画&gt;</b>	
(1)コンプライアンスに関する計画	計画が予定通り進捗している
(2)安全管理に関する計画	計画が予定通り進捗している
(3)マイナンバーカードの普及促進に関する計画	計画が予定通り進捗している